

ハイチ レオガン日記 第1弾

大阪赤十字病院
健診部看護師長
池田 載子

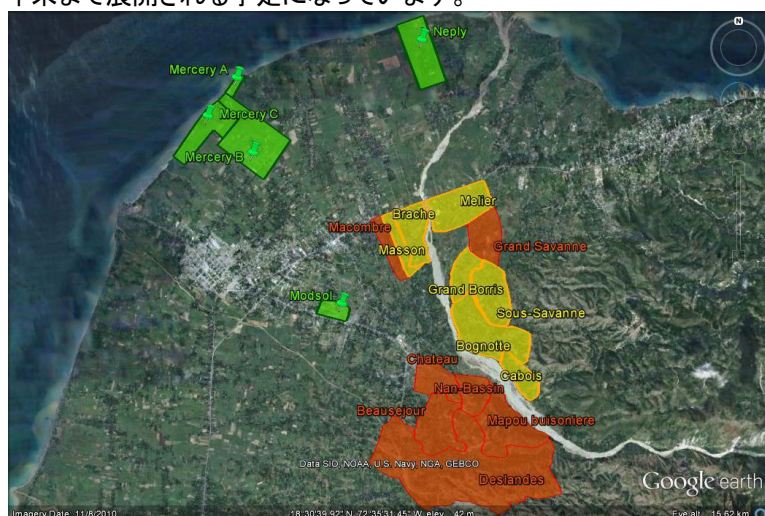
私は2010年に発生したハイチ大地震の震源地にもっとも近い Leogane という町で2012年2月から活動しています。



前回の地震に対する緊急対応ユニット(ERU=Emergency Response Unit)の時には Leogane 市内は道路にテントが立ち並んでいましたが、すっかりなくなっています。まだ IDP (Internal displaced person) のキャンプは多少残っていますが、スペイン赤十字やドイツ赤十字が建てた家が見られます。今の Leogane の IFRC (国際赤十字赤新月社連盟) 事務所前にも、スペイン赤十字の建てた家があります。

Leogane は震源地にもっとも近い街なので、緊急支援や復興支援のために非常に多くの赤十字や NGO が活動していました。現在の IFRC の Health (医療) チームの活動地は地図にある緑、黄色、赤の地域です。多くの NGO や赤十字との活動の重複を避けた結果、このような活動区域になったわけです。緑は IFRC の単独活動地域、黄色はスペイン赤十字の WatSan (Water and Sanitation ≡ 衛生環境整備) チームの活動地域で IFRC の Health チームと一緒に活動している地域、赤は IFRC の WatSan チームが活動し、なおかつ Health チームが活動している地域です。トータルで17地区、7300戸、約3万人の住民を対象にしています。

現在、Leogane で活動しているのはスペイン赤十字、ドイツ赤十字、スイス赤十字と IFRC だけになっており、それぞれの赤十字社の活動も縮小傾向にあります。特に Health チームに関係の深いスペイン赤十字の WatSan 事業は今年度末に終了、IFRC の WatSan 事業も来年の6月末に終了し、Health の事業だけが2014年末まで展開される予定になっています。



では、私たちがどのような活動を行っているのかというと、CBHFA (Community Based Health and First Aid) というアプローチを使って地域住民参加型の保健活動を行っています。

CBHFA は 1992 年に開発、使用されるようになった CBFA (Community Based First Aid) を基にして 2010 年に開発された、比較的新しいアプローチの方法です。ハイチでは、IFRC による Leogane での活用が初めてとなります。おお、これぞヘルス・プロモーションというアプローチなのですが、実際の活動には覚え立つ山々が立ちふさがっております。



国際救援部に CBHFA のマニュアルが全てそろっています。膨大な量のマニュアルですので、目を通すだけでも大変…。

CBHFA は、まずその活動を担うボランティアさんの選出から始まります。もちろん、コミュニティにまずアプローチして CBHFA がどのような活動なのか、何を目的としているのかを説明し、その活動のために地域住民の活動参加を呼びかけます。

ボランティアさんが自分たちの近所の 10-15 戸を担当できるように、人数を調整します。活動した結果を毎月報告してもらうので、字が読み書きできることを最低条件にして、コミュニティの人たち自身に選出してもらいます。その後、CBHFA のトレーニングが始まるのですが、ボランティアさんたちは基本的に仕事を持っているか、学生だったりするので当然毎日トレーニングすることはできません。そして 8 時間以上はボランティア活動をしてもらうことはできないという規則が赤十字にあるので、丸 1 日かかるトレーニングは週に 1 回にするのが精一杯で、トレーニングが終了するには大体 3 ヶ月くらいかかります。現在は、17 地域中 13 地域で救急法を除く CBHFA トレーニングが終了したところです。

トレーニングの内容は、まず赤十字とは何か、また赤十字の活動やボランティアというものはどういうものなのかというモジュールからスタートします。このモジュールのトレーニングは、しっかり時間をかけて行います。ハイチではボランティアという概念は定着していない上に、ハイチ赤十字自体が弱い組織なので、その活動がほとんど住民には知られていません。(時間をかけて理解してもらえるようにがんばっているのですが、大体 2-3 ヶ月ごとくらいに、賃金を払って欲しいという問題が繰り返し持ち上がってきます。)

その後、ボランティアさんに自分たちのコミュニティをアセスメントしてもらいます。自分たちの地域の簡単なハザードマップを作ったり、1 年間のカレンダー (Seasonal calendar) を作成し、どの時期にどのような災害や病気が起こりやすいのか、どんなイベントがあるのかなどを考えてもらいます。たとえば、ハイチではハリケーンシーズンがありますが、6 月から 11 月くらいまで続き、その期間はコレラやマラリアなどの病気が増えるわけです。そのほかに Rara という大きなお祭りがあるのですが、その約 10 ヶ月後には劇的に出産件数が増えます。当然 STI や HIV 感染のリスクが高くなるというようなことを、自分たちで考えてもらいます (ハイチはカリブ海の国々の中でドミニカ共和国と並んで HIV 感染率の高い国です)。



これは Hazard map の完成版です。5-6 人くらいのグループに分かれて作ってもらいます。



これは Seasonal calendar を作成中のところです。Hazard map と Seasonal calendar は一緒に作ってもらいます。それぞれのコミュニティのボランティアさん達が理解できるように、小グループに分かれて全員参加できるようにしています。

その上で、Leogane という地域にあわせたトピックを選んでトレーニングします。表にあるトピックが選んだもので、それを順に行っていくわけです。

Module		Topic	
1&2	Red Cross Introduction Community Mobilization	1-4	
3	Focus Group Discussion Mapping & Calendar	1-2	
4	Basic First Aid and Prevention of Injuries		FA by Disaster Management
5	Community mobilization in major emergencies M&E workshop	1-2	
6	Diseases prevention		
	➢ Family planning	2	
	➢ Safe Motherhood/Safe delivery	3	
	➢ Care of Newborn	4	
	➢ Nutrition/Breastfeeding	5	
	➢ Immunization/Vaccination campaign	6	
	➢ Safe Water, Hygiene and Sanitation	7	PHAST or 1-2days through CBHFA
	➢ Diarrhea & Dehydration	8	
	➢ Acute Respiratory Infection	9	
	➢ Malaria and Dengue Prevention & Control	10,15	
	➢ STI and HIV/AIDS	11	Additional training of HIV/AIDS
	➢ Tuberculosis	12	
	➢ Epidemic Control for Volunteers		

ボランティアさんたちにはお金は払いませんが、トレーニング中は、お昼ご飯とティーブレイクがあります。ボランティアさんたちは、トレーニング中、基本的にとてもまじめに聞いています。質問もたくさんします。それにトレーニングを行っている IFRC のスタッフもトレーニング最中におしゃべりが過ぎたり、ぼーっとしていると机をカツカツとたたいて、注意を促したりと結構厳しくしています。



これは Tampico です。めちゃめちゃ甘いのですが、ハイチ人はこれが大好き。もちろん、コーラとかSprite も出しますが、基本的にティーブレイクには Tampico を出すことが多いです。それとビスケットが IFRC の CBHFA トレーニングの定番となっています。

まだまだ書くことはたくさんありますが、レオガン日記第 1 弾としてはこのあたりで終わりにします。次は来年 1 月にお送りしたいと思います。